

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 13日

1. 職名・氏名 准教授・池本 裕行

2. 学位 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 京都大学、授与年 2013年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 日本経済史（4単位） 2年生 担当コマ数 30 コマ	
②内容・ねらい 江戸時代から現代までの日本経済の歴史と特色について講義を行うことで、その基礎的な歴史過程を説明できるようになるとともに、日本経済を長期的（歴史的）視点で考える姿勢を身につけることを目指す。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、事前にその内容を記したレジュメを配布したが、昨年度までと同じく、集中して説明を聞くことができるように、空欄は設けなかった。毎回講義の最後に時間をとって課した出席レポートは、翌週までに採点し、翌週の講義冒頭で優れたレポートを紹介したうえで、ポイントの説明や質問への回答を行った。内容の理解を深めるため、写真等のビジュアル資料も用いたり、話す速度について要望があった際にはできる限り対応したりした。また、日本経済史への関心を高めてもらうために、庶民の生活や環境と経済の関係のように身近なテーマを扱う回や、特任講師に講義をしていただく回を設けた。	
	【ゲストスピーカー 2人】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎ゼミ（2単位） 2年生 担当コマ数 15 コマ	
②内容・ねらい 入門レベルの文献の輪読を行い、大学での今後の学習において必要となる、本や資料からレジュメを作成し、発表するスキルの習得や、歴史研究の方法論について理解を深めることを目指す。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テキストの輪読では毎回報告担当者を決めてレジュメを作成することにしたが、その際には丸写しにならないように、またレジュメ作成の経験がほとんどないことを踏まえて、分量の上限を定めた。さらに、毎回レジュメのまとめ方やレイアウト等の改善点を指摘した。テキストは2冊用いたが、1冊目は歴史研究の基礎を扱ったものを取り上げ、史料の性質や史料調査、歴史研究の方法論に対する理解を促進した。2冊目は、受講者がより関心をもって授業に臨むことができるように受講者の意見を聞いて決めた。さらに、映像資料を用いることでより歴史研究への理解を深めることを目指して、DVDも教材として併用した。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 外書講読（2単位） 2年生 担当コマ数 15 コマ	

②内容・ねらい 日本経済史に関するテキストを分担して輪読を行い、英語の文章を正確に読んで、理解できるようになることや、日本経済の歴史に関する専門用語を理解できるようになることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 海外に向けて日本史の研究成果を発信するために、日本語の書籍を英訳したものをテキストとして輪読を行った。通常あまり見慣れない使われ方をしている用語も出てくるため、文法だけでなく、そうした用語・表現にも注意しつつ和訳を丁寧に確認した上で、内容の補足説明を行うようにした。また、毎回の授業終了後には、その回の輪読範囲の日本語版テキストを示し、復習に利用できるようにした。さらに、毎回のレジュメに対して、まとめ方やレイアウトの改善点等を指摘した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅰ（4単位） 3年生 担当コマ数 30 コマ
②内容・ねらい 日本経済史に関するテキストの輪読と、各自の研究テーマに関する報告を行うことで、日本経済の歴史について理解を深めると同時に、先行研究を踏まえて自分の研究テーマを見出すことを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テキストの輪読では、その丸写しにならないようレジュメの分量について上限を定めたり、報告者以外にも積極的に意見を述べることを促したり、座長を設けたりして、発表力、表現・発言力の養成を図った。また、就職活動や次年度の卒業論文・研究に向けて、自分の意見を文章化して相手にわかりやすく伝える能力を向上させるために、毎回一定量の感想を書くことを求め、それに対してコメントをするということも行った。なお、テキストは受講者の関心が高いものを選ぶことができるように、受講者と相談して決めた。さらに、グループに分かれてテーマを決めて研究を行い、それを4年生も参加した報告会で発表することで、研究の流れを実感できるように努めた。その後、自分の関心のあるテーマの文献を読んで報告し、次年度の卒業論文・研究に速やかに取りかかることができるように準備を整えた。 さらに、テキストで学習するだけでなく、史跡等を実際に見て学ぶために、学外でのフィールドワークとして、三国湊や劔神社、一乗谷朝倉氏遺跡などを見学した。 【フィールドワーク等 7件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ（4単位） 4年生 担当コマ数 30 コマ
②内容・ねらい 「演習Ⅰ」を通じてゼミ生が見出した研究テーマの個別研究報告とテキストの輪読を中心に進め、自らの研究テーマについて、史料調査・分析を行い、卒業論文・研究としてまとめることや、その研究内容を他者にわかりやすい形で発表できるようになることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ゼミ内で行う卒業研究発表会に向けて、各自の研究テーマについて調査・分析を進め、定期的に進捗状況や新たに調べた内容を報告するようにした。これ自体は昨年までも行っていたが、今年度は報告の頻度を増やし、教員が研究の進捗を細かく把握・指導することで、より充実した卒業研究となるように努めた。また、テキストの輪読では、歴史学の最新の研究成果とともに、卒業論文・研究を進める上で役に立つような、歴史研究の分析手法を学ぶことができるテキストを選んだ。さらに、史跡等を実際に見て学ぶために、学外でのフィールドワークとして、越前大野城、嶺南の寺社、高岡の瑞龍寺などを見学した。 【フィールドワーク等 7件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

経済学（2単位） 1年生 担当コマ数 1/15 コマ

自らの担当回に加えて、本科目の取りまとめも担当した

②内容・ねらい

経済学科教員がそれぞれの担当する専門科目の概要について、オムニバス形式で講義を行うことで、経済学に関する基本的な考え方や、経済学が現実を見る上でどのように役立っているかを理解できるようになることを目指す。

池本の担当回では、経済史とはなにかを学んだうえで、江戸時代の新田開発を事例として、人間の経済活動と環境の関係を理解することを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

池本の担当回では、1年生向けの一般教育科目という科目の性格を踏まえて、経済学部以外の学生にも理解しやすいテーマをとり上げた。また、理解度を高めるため、内容に関係するグラフや絵図を豊富に用いた。

取りまとめ担当者としては、本科目は全学の学生に対して、経済学の基礎概念を幅広く理解してもらうことを意図し、経済学部の学生に対しては、それに加えて学部教員とその専門分野の紹介を兼ねていることを意識した。具体的には、スムーズな運営を図るべく、講義順序等の検討、シラバスの作成、初回学生向け説明資料「経済学の進め方について」の作成、教員向けマニュアルの作成のほか、講義担当者への事前連絡、成績のとりまとめなどを行った。とくに成績のとりまとめにおいては、講義担当者間で評価のバラツキがないよう検討を重ねた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

福井を学ぶ（2単位） 1年生 担当コマ数 1/15 コマ

②内容・ねらい

福井という地域の基本的知識や特性をオムニバス形式で幅広く学ぶとともに、福井県立大学で行われている地域に関連した研究を深く知り、地域において福井県立大学が果たす役割を理解できるようになることを目指す。

池本の担当回では、近世越前農村を事例として、当時の土地所持のあり方を理解することを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1年生向けの一般教育科目という科目の性格を踏まえて、経済学部以外の学生にも理解しやすいテーマをとり上げた。また、事例とするのが江戸時代ということで、専門用語に関しては丁寧に説明して理解度を高めるように心がけた。

(2)その他の教育活動

2025年6月、就職活動を支援するため、キャリアセンターの就職アドバイザーに3年生のゼミに来てもらい、就職活動についての説明会を実施した。

2025年7月、就職活動を支援するため、ゼミの3年生が社会人として働く卒業生に就職活動体験について相談する就職相談会を実施した。

2025年10月、白檉祭において北野ゼミと合同で学部企画を実施した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0 本】
②学術論文（査読あり）	【0 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等	【0 件】
⑤その他の公表実績	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
理事（日本農業史学会、2023 年度～現在に至る） 理事（地域公共政策学会、2023 年度～現在に至る）	

5. 地域・社会貢献活動

永平寺史料調査会正会員（2025 年度～現在に至る）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- ・ 広報・地域連携チーム（2024 年度～現在に至る）
- ・ 1 年生相談担当教員（2022 年度～現在に至る）

(3)学内行事への参加

- ・ 高校向け入試説明会（大野高校、2025 年 7 月）
- ・ ふくい企業価値共創ラボ（2025 年 9 月）
- ・ 開放講義（武生東高校、2025 年 10 月）

(4)その他、自発的活動など

- ・ 白檜祭における学部企画（2025 年 10 月）